

新学部創設等基本構想

(概要)

平成30年4月
新潟県立大学

1. 新学部の教育理念と目指す人材像

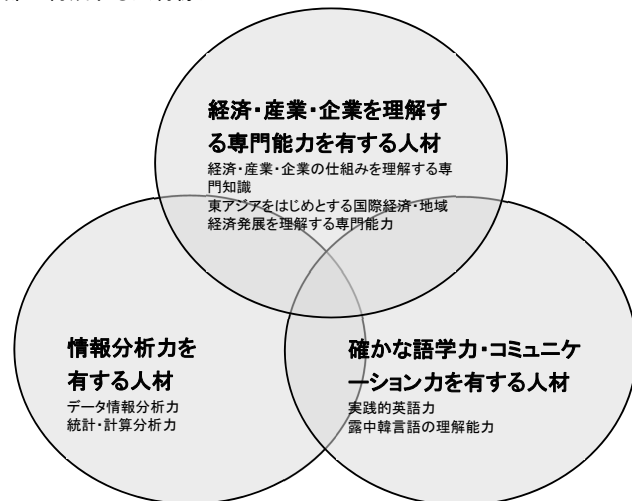
【教育理念】

- 経済・産業・企業の仕組みを理解する専門能力、情報・データを分析する力、英語や露中韓言語に関する確かな語学力・国際コミュニケーション力を有する人材を育成し、地域の発展に貢献すること
- 本学に対して社会が求める教育ニーズに応じて、高い水準の教育を提供することにより、県民に選ばれる教育研究拠点となること
- 地域の教育機関・産業界・行政と協力・連携しつつ、地域社会に開かれた高等教育の機会を提供すること

【目指す人材像】

東アジアをはじめとする国際社会において活躍できる力、東アジアとのネットワークの中で発展する新潟の地域創生を担う力を持つプロフェSSIONナルの育成を目指す。

＜新学部の育成する人材像＞



2. 学部の構成

| 国際経済学部 (仮称) | 国際経済学科 (仮称) | 国際経済コース (仮称) | 東アジアをはじめとする国際経済における経済・産業・企業の発展を担う人材の育成 |
|----------------|----------------|-------------------|--|
| | | 地域経済創生コース (仮称) | 地域における経済・産業・企業の創生と持続的発展を担う人材の育成 |

※国際経済学部(仮称)の入学定員は90名(予定)とし、学生は、1年次終了後、所属コースを決定する。

3. 学部の教育目標と体系的教育

(1)新潟の知とグローバルな視野を習得するための教養教育

地域社会を深く理解し、グローバルな知識と視野を有する国際的産業人材としての基礎を形成

(2)外国語教育

英語を実践的に駆使する能力、露中韓言語の基礎力等の習得

(3)専門的基礎能力を高める入門教育

経済・産業・企業の仕組みを理解する基礎能力、データ情報を分析する基礎技能の習得

(4)専門的知識に裏付けられた理解力・応用能力を高める教育

国際経済における経済・産業・企業の仕組みを理解する専門知識を有し、グローバル化する経済・産業・企業において必要とされる専門知識と応用能力の習得
地域における経済・産業・企業の仕組みを理解する専門知識を有し、地域の経済・産業・企業の創生と発展に必要とされる専門知識と応用能力の習得

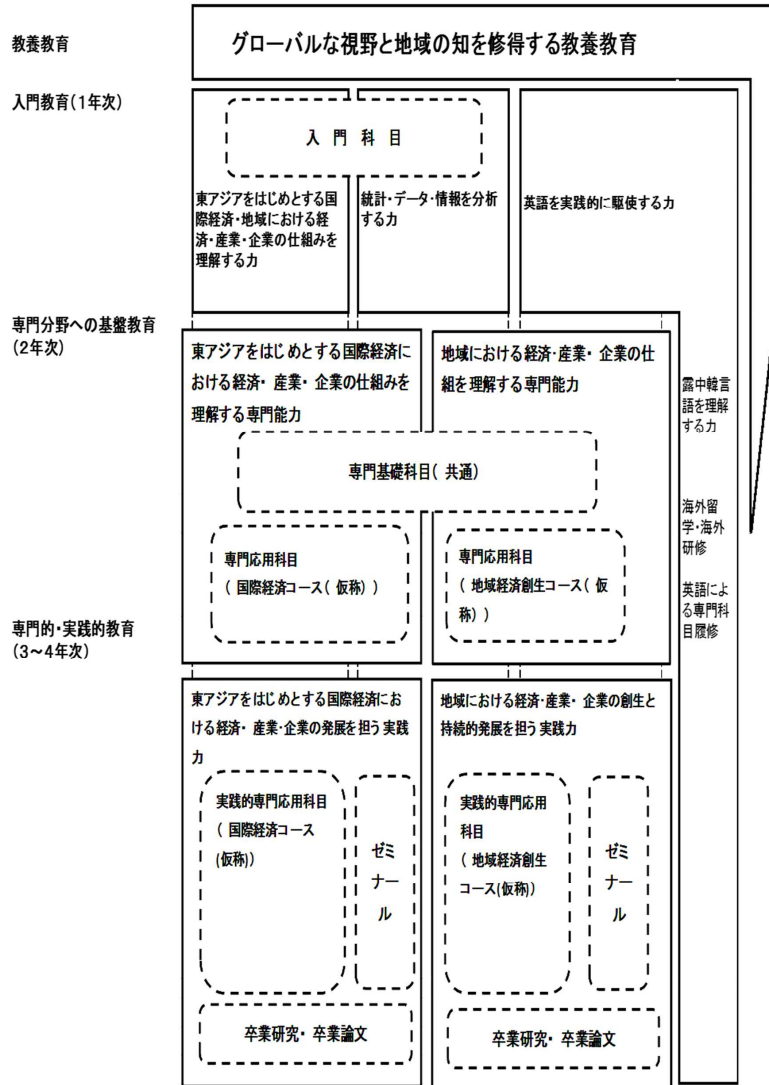
(5)実践力を習得する専門教育

英語による専門科目の教育や専門科目に実地調査・フィールドスタディを織り込むことにより、地域が直面する具体的課題を取り上げ、その課題を解明し、主体的に解決に取り組むことの出来る実践的専門能力の習得

(6)少人数による主体的理解力を得る教育

ゼミナールを中心として、学生一人一人が主体性をもって課題に取り組む力の習得

＜新学部カリキュラムの年次進行イメージ＞



4. 既存学部の整備充実

(国際地域学部)

経済系の新学部と国際系・人文科学系の国際地域学部とが補完的に教育効果を発揮することが重要である。このため、国際地域学部では国際・社会・文化・言語系の領域における一層充実した教育研究拠点となるよう、4コースを3コースに再編する。

(人間生活学部)

保育・幼稚園教育・福祉人材への需要の高まりに応えるため、人間生活学部子ども学科の入学定員を40名から50名に増員する。

5. 教育研究施設の整備

本学教育の一部は、50年を超える老朽化・狭あい化した教育研究施設で行われており、更新の先送りは限界となっている。このため、一部施設の改築を行う。

6. 開設時期

新学部の開設は、平成32(2020)年4月を目標とする。

＜改革後の姿＞

| 現行(定員260名) | 改革後(定員360名程度) |
|--|---|
| ●国際地域学部国際地域学科 (定員180名) | ●国際地域学部国際地域学科 (定員180名) |
| 国際社会コース 比較文化コース 東アジアコース 地域環境コース | 国際社会コース 比較文化コース 東アジアコース (コース名の一部変更を予定) |
| | ●国際経済学部国際経済学科【仮称】 (定員90名程度) |
| | 国際経済コース【仮称】 地域経済創生コース【仮称】 |
| ●人間生活学部(定員80名) | ●人間生活学部(定員90名程度) |
| 子ども学科(定員40名) | 子ども学科(定員50名程度) |
| 健康栄養学科(定員40名) | 健康栄養学科(定員40名程度) |